

ヒアリング調査結果 ～ファミリー・サポート・センター提供会員～

- 実施日時：平成31年2月25日（月）～3月6日（水）
- 実施場所：西東京市社会福祉協議会の窓口
- 実施方法：サポート会員（ファミリー・サポート・センターの提供会員）が社会福祉協議会に月例報告を持参する際、アンケートに回答してもらう形式で実施
- 回答者：27人

回答者

年代	女性	男性
20代	0	0
30代	0	0
40代	2	0
50代	6	0
60代	9	0
70代	7	0
80代～	0	0
NA	3	0

これまでに行ったことのある援助活動

内容	これまで行ったことがある援助	ここ1年ほどで最も多かった依頼	近年増えていると感じる依頼
1～2 時間程度の子どもの預かり	22	3	1
2 時間以上の子どもの預かり	21	9	5
登園・登校の付き添い	16	4	5
保育園や学童クラブなどのお迎え	21	6	4
学童クラブ終了後の預かり	12	2	1
習い事の送り迎え	14	3	3

「これまで行ったことがある援助」《その他》：産前、産後のサポート

以前（5年ほど前）と比べて、子どもや保護者が変わってきたと感じること

内容	回答数
活発な子どもが増えた	6
子どもがよくおしゃべりをする	10
甘えてくる子どもが増えた	3
居場所のなさそうな子どもが増えた	2
子どもが忙しくなっている	9
保護者が忙しくなっている	14
子どもに手をかけない親が増えた	3
保護者からの無理な要求が増えた	0

《その他》：はじめたばかりなので比べられない。／今の自分たちにできる範囲で子ども、親共々努力をされていると思う。／子育てを頑張っている親御さんが多かった。／5年前は活動していないのでわからない。／保護者が気軽に支援を利用するようになってワンオペ育児が減っている気がして良いと思う。

子育てで困っている（ように思われる）保護者や、何らかの支援が必要だと感じられる子どもと接した経験とその状況

内容	回答数
食事を十分にとれていないようだ	1
学校等に友人がいないようだ	0
服装や髪が不衛生なことが続いている	0
不登校を経験している	0
家庭が地域から孤立しているようだ	2
学校の授業が理解できていないようだ	1
保護者が家庭を顧みていないようだ	2
非行や非行につながる問題行動がある	0

《その他》：特になし

子どもとのふれあいの中で感じたことやエピソード

「よかったな」「うれしかったな」と感じたこと

- 遊んでいて笑顔を向けてくれること。
- バースデーカードをいつも書いてくれる。
- いつも楽しくしている。
- 長く預かっているうちに心も体も成長を感じられたり、身近な年上の友だちの一人として自分の心の中を話してくれたりするとき。
- 帰り際に「〇〇さん！！」と言いながらムギュっとされただけで、すごく嬉しく感じる。
- 子どもの楽しかった出来事などを、うれしそうに報告してくれると、こちらまでうれしくなる。
- 3歳の人見知りのお子さんの保育園のお迎えの時に（だんだんと）慣れてきて、帰り道に大きな声で歌を歌いながら帰ってきたのはうれしかった（保育園のお友だちのお母さんに話しかけられても逃げてしまうほどの人見知りだったので）。
- 名前を覚えてくれてよくお話をしてくれること。
- 子どもの成長が見られること。ハイハイだった子が歩けるようになった。
- お世話して帰る時、まだ遊びたいとねだる。うれしい反面困る？
- 外出など活動外で「おばちゃん」とよばれたとき。
- 今流行の歌を教えてくれる。優しい心遣い。
- 訪問すると待っていてくれて「今日は〇〇しよう！」とお子さんの方から言ってきたこと。
- 何度かサポートしたことがあるお子さんが、偶然街中で会った時に「〇〇さ～ん」と声をかけてくれたこと。

- 色々な話をしてくれる。
- 「内緒ね」と言って、いろいろおしゃべりしてくれて、第三者に話すことで気晴らしになっているようで役に立ってるかなと感じられた。
- 「〇〇さん」と名前と呼んでくれる。
- 帰っちゃいやだと、親より私が良かったのか一時でも嬉しかった。泣きわめかれた。両親もおばあちゃんもいたのに。
- 幼稚園にお迎えに行った時、うれしそうにしてくれたこと。楽しそうにいろんなお話をしてくれたこと。
- サポート終了後も連絡があり、子どもの成長が楽しみ。

「残念だったな」「こうすればよかったな」と感じたこと

- お迎えで言うことを聞いてもらえず、こわい（危険な）ことがある。どうすればいいか悩む。
- 午前だけの預かりなのだが、午後の予定などを聞いて「お昼寝をさせておいて欲しい」など要望を聞いておけばよかった。
- ベビーカーで寝るので途中の色々をお話できない。
- 家におもちゃがあるので、次々におもちゃを出して同じおもちゃであまり遊ばない。
- お母さんのお話をゆっくり聞ける時間がとれないこと。

市や地域の人たちに「こうあってほしい」と思うこと

- 地域全体として子どもを見守っていけるようになるとよいと思う。
- のどかひろばの開放時間をもう少し早くして欲しい。
- 「こうあってほしい」ことは、困っている子どものフォローはもちろん大事だが、たて割りで行政間の連絡がきちんとなされておらず、困っている保護者の方の声が届きにくいことがまだあると思われる。困っているときは“ここへ”というわかりやすい仕組みが周知されることを願う（現在、充分取り組んでくれているが、それでも知らない方がいるので）。
- 元気なお年寄りが多い中、部屋があれば、屋の間だけでも子どもをみてあげられるのではと思う。

まとめ-----

- 「名前と呼んでくれた」「まちの中で声をかけてくれた」「甘えたり、いろいろな話をしてくれた」など、支援で関わった子どもとの心の交流が嬉しいという声が多い。
- 数としては少ないが、不十分な食事、家庭の孤立、授業の理解不足、保護者が家庭を顧みていないのでは。など、子どもの置かれている環境に心を砕いている様子がみられた。
- 以前と比べて変わってきていると感じられることで、子どもについては「よくおしゃべりする」「忙しくなってきた」との感触、保護者については「忙しくなってきた」との感触が多い。